

令和 5年度

園番号 56

園名 駿河待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
のびのび遊ぶ元気な子	見て！聞いて！触れて！好きな遊びを楽しむ ～大好きな場所～ ～大好きな人と一緒に～	子どもが身近な人や物、自然に関わる中で自分の好きな遊びを見つけて満足するまで遊ぶ	子どもが楽しんでいることを見つけて共感し、もっと楽しくなるような環境作りやわかわりを考え取り組んだ	A	93.50%	園関係者評価委員から	・職員会議やクラス会議を定期的に行い、子ども一人ひとりの発達や課題について共通理解すると共に、保育計画や環境作りを連携して取り組むことができるようにする ・わらべうたやふれあい遊び、手作りおもちゃ等乳児園ならではの遊びの提供を継続して行う ・園庭、保育室共に子どもの発達に合わせた環境、身体を動かしてあそぶことができる場所を作っていく
				B	6.50%		
				C	0%		
		子どもが好きな場所、人を見つけ、自分の思いを出しながら安心して遊んでいる	子どもの思いに寄り添い、共感したり一緒に楽しんだりすることで安心して過ごせるようにした	A	93.50%		
				B	6.50%		
				C	0.00%		
		園庭や園外環境を有効活用し、身体を動かしたり、自然に触れたりする体験が、十分できるようにする	園庭に、子どもの動きや発達に合わせた運動遊びができる環境を作り、十分に体を動かして遊べるようにした。また、登呂公園等近くの公園に出かけ、身近な自然に触れて季節の変化を感じられるような機会を計画的に作った	A	90.30%		
				B	9.70%		
				C	0%		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)				
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて保育が進められ、子どもの育ちが見られる	子ども一人ひとりの発達等に違いがあることを理解し、それぞれの姿に合わせた目標や保育内容を職員間で話し合い、学年目標に向けて保育を進めた	A	93.50%	園関係者評価委員から	・職員会議、5分間ミーティング、園内研修等で、クラスや子ども一人ひとりの現状や課題を明確にし、共通理解をして保育を進める				
				B	6.50%						
				C	0%						
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭と連携を取り合い、安心して過ごせるようにする	連絡ノートや送迎時の保護者からの伝達等を職員間で共有し、一人ひとりに合わせたリズムで安心して過ごせるようにした	A	87.10%						
				B	12.90%						
				C	0%						
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの心が動いた瞬間を捉え、遊びの次の展開を予測し、環境の用意や働きかけをする	子どもが今どんなことを楽しんでいるのかを職員間で話し合い、遊びが広がると楽しくなる環境を考えたり、発達に合わせた身体の使い方や遊び方を工夫したりした	A	100%						
				B	0%						
				C	0%						
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練に取り組み、非常時の対応を身につけていく	毎月地震、火災の避難訓練や不審者訓練を様々な想定で行い、職員の役割を確認したり反省を出したりして、安全に避難することができるようにした	B	61.20%	園関係者評価委員から	・子どもが、避難訓練について教えてくれました。地震が怖いという感情を持っており、感心してしまいました。園で、しっかり訓練をしていることがわかり、本当に感謝しています				
				B	38.70%						
				C	0%						
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食事・排泄・着脱・清潔・睡眠等基本的な生活習慣が身につくよう、家庭と連携をとりながら、個に合った援助をする	一人ひとりの発達や生活リズムに配慮し、家庭での様子も聞きながら、基本的な生活習慣が身につくように援助していく。一緒にやってみたり、できたことを褒めたりして、自信や意欲に繋げていった	A	83.90%			園関係者評価委員から	・園に通うようになってから、自分でやろうとしたりできることが増え驚いています。遊びや生活を通して、様々な経験をし、成長を感じます		
				B	12.90%						
				C	3%						
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	1人1人が生き生きと遊び、生活できるよう、発達や特性に合わせた支援をする	発達が気になる子、ゆっくりな子についてケース会議で話し合い、支援方法を考え実践した。支援方法や話し合ったことは、全職員で共有し、どの職員でも同じ対応ができるようにした	A	90.30%					園関係者評価委員から	・子どもが、とにかく楽しそうに嬉しそうに登園するので、園が安心して楽しい場所になっているんだと感じています
				B	9.70%						
				C	0%						
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自己の役割(分掌)に責任を持ち協力して運営を進める	分掌の年間計画を基に、担当職員が計画や話し合いを進めていった。計画の見直しや変更もあり、スムーズに進められないこともあったが、職員間で進捗状況を確認しながら実践した	B	87.10%	園関係者評価委員から	・毎月の季節に合った製作や行事の準備、手作りのおもちゃがたくさんで、お忙しい中で子どものことを考えてくれてありがたいです				
				B	6.50%						
				C	6.50%						
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「もっと！やりたいを育もう」を理解し、日々の実践や話し合いを通して学び合う	公開保育や園内研修を行い、視点に沿って意見を出し合ったり、日々子どもの姿を語り合ったりして、子ども理解を深めた。子どもたちの発達やあそびに合わせた環境を見直し、また話し合いをして、職員間で学びを深め実践に繋げた	B	74.10%			園関係者評価委員から	・研修主任を中心に公開保育や園内研修を進めながら、職員間で意見や感想を出し合い、園全体で学び合えるようにする		
				B	25.80%						
				C	0%						
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	安全点検を実施し、想像力を働かせて安心安全な環境を作る	ヒヤリハットを付箋に記入し、園内で見取り図に貼ることで、職員間で危険箇所を共有した。対策や改善案も考え、安全に過ごせるよう環境の見直しをした	A	80.60%					園関係者評価委員から	・いつも目に入る場所に園内図を用意し、意識してヒヤリハットを記入できるようにする
				B	19.40%						
				C	0%						
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保育者と保護者が、子どもの良い所や成長の喜びを共有できる関係作りをめぐる	毎日の連絡ノートの記入、送迎時の会話を通して、子ども一人ひとりの様子を丁寧に伝え、家庭と連携を取りながら子どもの育ちを共有した。月1回の参加会、クラス便り等でも、園での様子を見てもらったり伝えることができた	A	96.70%	園関係者評価委員から	・子どもに対して、日々手厚く、優しく保育してくれていることが、連絡帳や子どもの様子、送迎時のやりとりや参加会を通してよく伝わってきます。親子も安心です				
				B	3.20%						
				C	0%						
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	隣接する支援センターと、連携と交流を図り、保護者にも発信していく	子育て支援センターとは、週1回わらべうたの会を行うことで交流し連絡を取り合った。また、自園の公開保育を見に来てもらい、日頃の保育の様子を知ってもらった。児童発達支援センターも、施設見学等の交流で連絡を取り合った情報交換をしたりした	B	80.60%			園関係者評価委員から	・わらべうたの会等近隣施設との交流を計画的に行い、その様子を保護者にも発信していく		
				B	19.40%						
				C	0%						
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域との関わりを大切にし、近隣に散歩に出掛けた時は明るく挨拶をかわすなど交流を重ねる	散歩の途中で出会う地域の方に挨拶をしたり、手を振ったりして交流した	B	80.60%					園関係者評価委員から	・こちらから挨拶をし、地域とのつながりを大切にしていける ・地域との災害時の協力体制を作っていく
				B	19.40%						
				C	0%						